

群馬県立伊勢崎興陽高等学校学校評価一覧表②（平成25年度版）

（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校やクラスが好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。 ②所属系列の学習活動に、満足している生徒が90%以上である。 ③系列の選択が希望どおりであった生徒が95%以上である。 ④地域との交流活動やボランティア活動に参加した生徒が70%以上である。	A	A	A	①「本校が好き」な生徒は84%であった。また、本校への入学やクラスに満足している1年生は、ともに86%でありよい結果であった。今後も魅力ある学校作りを推進する。 ②2・3年生で、所属系列に満足している生徒は93%で、クラスに満足している生徒は87%であった。系列等の指導を、さらに充実させる。 ③1年生の系列選択では施設等の制限で調整が必要とされる。 ④清掃ボランティア活動回数を増やした。より一層の参加を促す。	・総合学科は生徒の希望が生かされているので、目的意識を持ち、意欲的に取り組めるようになってきている。そのことが学校生活が充実していることの一因である。 ・学習成果発表会では課題解決に向けて一年間取り組む姿が素晴らしく、興陽高校の特色が良く現れた発表会であった。 ・系列選択希望の満足度が年々上がっているがあと5%アップして、90%を目標数値にして頑張ってもらいたい。 ・地域清掃活動に協力いただき感謝している。今後もよろしくお願ひします。 ・最近各系列別に多方面で活躍している記事を目にします。これによって興陽高校の特色を学校外の方々に理解してもらいいい機会だと思う。生徒もたくさんの人に学習内容を知ってもらうことにより第三者とのコミュニケーションが生まれ、更に学校が好きになる生徒が増えるのではないかと。 ・目標達成に少しでも近づけてもらいたい。	・専門系列を持つ総合学科高校の特色を活かした学習活動を推進し、「学校が好き」な生徒を更に増やす。 ・生徒の希望を実現できるよう、系列や選択科目の開講を実施する。また、特色あるカリキュラム編成や資格取得、学校行事、交流学习等を推進する。 ・課題研究や懸賞論文等の各種作品募集等に、積極的に取り組ませ、自ら考える力を育成する。 ・地域活動やボランティア活動の機会を増やし、参加を促す。
	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①授業が分かりやすいと感じている生徒が90%以上である。	B	B	B	①授業がわかりやすいと感じている生徒は73%であった。今年度より生徒評価を取り入れたが、より一層の授業改善を図る。	・授業の満足度がさらに上がるよう、分かる授業の授業改善に取り組む。 ・地域の人材や・社会人講師の有効活用を図る。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	②年度の終わりに基礎力が向上した生徒が90%以上である。 ③定期試験前や試験中の家庭学習時間が2時間以上の生徒が70%以上である。	B	B	B	②「基礎力テスト」を実施している。毎SHR時に一般常識問題も実施し、常識力を身に付けさせる。 ③定期試験前の学習時間が2時間を超える生徒は25%のどまった。今後の重点課題で有り、来年度に向けて改善が必要である。	・家庭学習2時間を目標にすることも必要なことではあるが、質を高め集中して取り組めるようにすることも大切なことであると思う。 ・テスト結果を分析し、家庭学習の進め方を保護者・先生で検討し、一番良い方法を実践してもらいたい。 ・テスト前の学習時間が2時間は決して長いとは思いませんが、短期集中を継続していく形もあるかと思う。	・学年毎に基礎学力を向上させるための取り組みを検討し、3年間を見通した基礎学力の向上を図る。 ・読書活動の活発化や宿題等で、家庭学習習慣を身に付けさせる。
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①あいさつができていと思う生徒が60%以上である。 ②生徒に関する情報交換会を各学期に3回以上実施する。	A	A	A	①あいさつできていいる生徒は49%であった。できていない生徒は5%なので、中間層のあいさつ指導を強化・継続する。 ②職員会議や朝会で、全職員による生徒情報の情報共有化が図られている。	・人なつこく挨拶をしてくれる生徒が多い。児童からの声かけにも手を振って応えるなど、心温まる思いがする。 ・挨拶はすべての基本であり徹底した指導により校内だけでなく世間一般に通用するように習慣づけてもらいたい。	・あいさつ、身だしなみ、時間を守ると言った、基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を推進する。 ・生徒情報を共有し、職員の共通理解を図る。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	③生徒の欠席率が2.0%以下である。 ④中途退学者及び転学生徒を6名以下にする。 ⑤部活動や研究部の入部率が70%以上である。 ⑥学校がきれいであると思う生徒が80%以上である。	A	A	A	③4月から12月末日現在までの平均欠席率は1.2%（H24は1.3%）であり毎年改善されている。 ④現在の転退学者数は3名であり、さらに生徒に対する細やかな指導が必要である。 ⑤部活動や研究活動に取り組む生徒は71%である。女子生徒の参加率を上げる工夫を図る。 ⑥校内美化は良好である。本年度より、校外清掃も実施した。	・欠席率が低いことは生徒にとって学校生活が楽しくまた、充実したものとなっているからであると思う。先生方が生徒一人ひとりを良く把握して、適切に指導・支援されていることの現れであると感じる。 ・部活動での活躍やコンクールでの優秀な成績、各資格の獲得等の様子から、生徒それぞれが、意欲的によく頑張っていることがわかる。 ・年々向上している。今後も継続してもらいたい。 ・部活動は在学中の特徴である。一生に一度しか経験できないことであり、以後の人生の糧になることを指導してもらいたい。 ・女子の部活動は早めに対処してもらいたい。	・転退学者数は極端に減少した。今後も、教職員のきめの細かい指導体制を継続する。 ・学校全体の取り組みとして、出席率の向上を目指す。 ・女子生徒が増加しているので、女子の部活動の活性化を推進したい。
	6 計画的な指導を行っていますか。	①学校の進路指導に満足している生徒が95%以上である。 ②生徒の資格取得率を1.5資格以上にする。	A	A	A	①進路希望の決まってない1・2年生67名と3年生の就職試験不合格者等への進路指導や支援を充実させたい。 ②今年度の資格取得した生徒では、1学年が少ないので重点指導を進める。	・大学・専門学校への進学する生徒が多く将来の夢や希望の実現に向けて生徒の意識が高く、現実を見据えた選択ができていると思う。適切な進路指導が行われていることがよくわかる。 ・資格の取得は本人の大きな人生の財産である。一つでも多く取れるように指導してもらいたい。	・生徒の希望する進路実現、様々な出口を保証できる進路指導の推進。 ・進路や系列に関連した資格を、計画的に取得できるよう指導する。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	③自分の将来の職業について考えている生徒が80%以上である。 ④生徒全員の進路実現	A	B	A	③①今年度は2学年全員でインターシップを実施した。 ④就職が厳しい状況にあるので未定生徒に対する支援を行う。	・進路未決定者の「心のケア」を充分にして、くじけないように気配りをお願いしたい。 ・時間を作りインターシップを全ての系列で実施してもらいたい。これによって自分の将来について考える機会が増え、方向も早期に見えてくると思う。内定状況をもて進路指導を熱心に取り組んでいることが伺える。	・インターンシップをすべての系列で実施する。 ・各学年の発達段階に応じたキャリア教育を計画的に実施する。
	8 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①学校のホームページを月1回以上更新している。 ②学校の教育活動を理解し、満足している保護者が95%以上である。 ③地域の催し物等への積極的な参加と、本校での催し物のPRを行い、地域から本校の理解度が高まるようにする。	A	A	A	①Webページの更新が積極的になされている。今後も推進する。 ②学校の様子がわかっている保護者が57%である。学校・学年通信、「生活アンケート」をもとに行う三者面談等を通じ理解を図る。なお、本校教育活動に満足している保護者は86%であった。 ③興陽フェスタや燈華会、まちなか夕市、産業祭等、地域の行事に積極的に参加し、本校への理解を深める努力をする。	・新聞や広報等に生徒の活躍の様子が掲載され、学校の取り組みがよくわかる。興陽フェスタについては、開催を知らない人もいるようなので、広報等で広く知らせると良いのではないかと。 ・積極的に情報発信をして教職員・保護者が一体となって、本校発展に寄与してもらいたい。 ・興陽フェスタは地元区民が楽しみにしているため内容をどんどん大きく発展してもらいたい。	・Webページの更新を月ごとに実施する。学校だよりや学年通信、PTA新聞等も活用し、学校情報の発信と広報活動をさらに充実、発展させる。 ・PTA活動の活発化のための方策を考え実施する。 ・興陽フェスタや地域の食材を使った商品開発、交流活動等を推進する。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 地域教育機関との連携	④保・幼・小学校との連携授業や出前授業を年間5回以上行い、交流を深める。	A	A	A	④幼稚園との交流事業は計画通り行われている。本校が持つ教育力を地域の小・中学校や住民へ向け活用する活動を推進する。	・一年間の交流を通し、園児・生徒にとって関わりを持ったことで、多くの大切な体験をすることができた。今後も継続し、更に内容を充実してもらいたい。	・生徒を伸ばすための、地域教育機関との交流学习活動の精選と推進。